

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530661

研究課題名(和文) ライフステージに基づく父親・母親のワーク・ライフ・バランスと家族成員の発達・適応

研究課題名(英文) Study on the development and adaptation of family members and work-life balance of father-mother based on the life stage

研究代表者

尾形 和男 (OGATA, KAZUO)

愛知教育大学・教育学部・教授

研究者番号：10169170

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円、(間接経費) 450,000円

研究成果の概要(和文)：夫婦のワーク・ライフ・バランスに関しては、妊婦、幼児、児童の家庭では夫又は妻の高い家庭関与が良好な夫婦関係を形成し、児童の家庭では妻より夫の家庭関与が低い場合に妻のストレスが高かった。中学生と高校生では、家庭・仕事・余暇活動・地域などの領域への関与が夫婦共に高い場合、良好な夫婦関係と良好な家族機能が形成され家族メンバーのストレスが低かった。

また、夫または妻のワーク・ライフ・バランスでは、家庭関与を中心として仕事などの領域に関わる場合に良好な夫婦関係と良好な家族機能が形成されることが妊婦、幼児、児童、中学生、高校生の各ライフステージにわたり示された。

研究成果の概要(英文)：In the case of work-life balance of the couple, a husband's or wife's high home participation formed the good marital relationship at the home of the pregnant woman, the infant, and the child. And when a husband's home participation was lower than a wife, the wife's stress was high at the children's home. In the junior high school student and the high school student, when husband's and wife's participation to each domain, such as a home, work, a leisure-time activity was high in couple together, the good marital relationship and the good family function were formed, and the family member's stress was low.

Moreover, in the case of husband's or wife's work-life balance, if husband or wife is mainly concerned with the home participation it was shown over each life stage of a pregnant woman, an infant, a child, a junior high school student, and a high school student that a good marital relationship and a good family function are formed.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：ワーク・ライフ・バランス 夫婦 夫 妻 夫婦関係

1. 研究開始当初の背景

ワーク・ライフ・バランスは女性の社会進出や生き方の変化に伴い、男女共に生活の質を上げるために仕事と家庭生活をどのように営むかということが基本命題である。その内容に関する研究も徐々に行われるようになってきている。しかし、現実には子育てとの関連で女性にかかる負担を如何に軽減すべきかという視点から研究が進められて来ている。これに関してはアメリカを中心として先行研究が多く見られるが(例えば、Lieberman, Doyle & Markiewicz, 1999; Kitzmann, 2000)、我が国でも研究が報告されている(例えば、柏木・若松, 1998; 尾形, 1995; 尾形・宮下, 2000; 菅原・八木下・琢磨・小泉・瀬地山・菅原・北村, 2002; 尾形・宮下・福田, 2005; 青木・岩立, 2005; 尾形, 2007)。しかし、全体的には子育て期にある家庭を対象とした研究が多く、ライフステージ全般にわたる研究が求められている。

2. 研究の目的

本研究では、妊娠期、幼児期、児童期、青年期にわたり、父親と母親のワーク・ライフ・バランスの状況が家族(夫婦関係、家族成員のストレス、家族機能形成)にどのような影響をもたらしているのかを調査によって分析検討することを目的とする。

3. 研究の方法

妊婦をはじめとして、各ライフステージの家庭の、父親・母親・子どもについてのアンケートを実施した。

調査対象は、東京・千葉・埼玉・愛知などに在住の、妊婦、幼児、児童、中学生、高校生などの家庭。家族の母親、父親のワーク・ライフ・バランス、夫婦関係、家族メンバーのストレス、家族機能について問う内容の質問紙を用意した。調査の依頼は関係機関を通し、あらかじめ調査の趣旨などを説明し、協力して頂ける家庭に調査用紙を配布し郵送法で回収した。アンケート用紙は、父親、母親、子供用に別々に冊子にし、封筒にまとめて入れて配布し、記入後は封筒に入れてもらった。また、幼児、児童の家庭では母親に子どもについて記入してもらった。

調査時期は、2011年～2014年。

4. 研究成果

(1) 妊婦の家庭について

夫婦のワーク・ライフ・バランスと家族

東海地区に在住の124世帯を対象とした。ワーク・ライフ・バランス、夫婦関係、ストレスを調べるアンケート用紙については、因子分析により因子を抽出した。家族機能については「結合性」「表現性」「権威的」「民主的」4つの機能を扱った。ワーク・ライフ・バランスのアンケート用紙を因子分析し、抽出された因子に基づきクラスタ分析を行い、

ワーク・ライフ・バランスの類型化を行った(以下の幼児・児童・中学生・高校生の報告は同様の手続きに基づき分析を進めた)。その結果4類型抽出された。は「夫婦低関与型」、は「夫家庭関与型」、は「妻家庭夫仕事型」、は「夫婦高関与型」とした。夫婦のワーク・ライフ・バランスが家族にどのような影響をもたらしているのかを明らかにするために、各因子の下位尺度得点を算出した。そして、ワーク・ライフ・バランスの4つのクラスタを独立変数、夫婦関係、家族成員のストレス、家族機能を従属変数として、一元配置分散分析を行った。その結果、夫の見る夫婦関係「相互理解」では >、「相手への要望」で <、<・、妻のみ見る夫婦関係の「相互の信頼感」で <、「相互のコミュニケーション」において <、「相手への要望」では <であった。妻のみ見る夫婦関係の「相互の信頼感」「相互のコミュニケーション」では、夫婦共に家庭関与が高い場合である。

夫のワーク・ライフ・バランスと家族

夫のワーク・ライフ・バランスの型はそれぞれ次のようになった。クラスタは「仕事中心型」、クラスタは「低活動型」、クラスタは「家庭中心型」とした。夫のワーク・ライフ・バランスが家族にどのような影響をもたらしているのかを明らかにするために、各因子の下位尺度得点を算出した。そして、初産婦(55名)と経産婦(69名)別々の分析を行ったところ次の結果が得られた。初産婦については、夫の見る夫婦関係において「相互理解」で >であった。また経産婦では、妻のストレス「圧迫感」においては >が示された。

この結果から、初産婦家庭では夫が仕事か、家庭に関与している場合に夫婦相互の理解が得られていると認知していること、経産婦家庭においては夫が仕事、家庭ともに関わりが少ない場合に妻のストレスが大きいことが示された。

(2) 乳幼児の家庭について

夫のワーク・ライフ・バランスと家族

関東、東海地区に在住の161世帯を対象とした。父親のワーク・ライフ・バランスの類型化を行った。その結果、は「地域交流型」、は「家族中心型」、は「バランス型(家庭・仕事・余暇時間の活用・地域交流などすべてに高く関与)」とした。これらが家族にどのような影響をもたらしているのか検討を加えたところ、父親の認知する家族状況に少なからず影響をもたらすことが示唆された。特に、の家庭関与が少なからず多いワーク・ライフ・バランスでは、夫婦関係と家族機能形成に正の影響が見られた。

妻のワーク・ライフ・バランスと家族

父親と同様の分析を加えた結果、クラスタそれぞれ、は「仕事中心型」、は「バランス型」、は「家庭と仕事中心型」、は「消極アンバランス型」とした。これに基づいた

分析の結果、「仕事中心型」は夫婦関係、子どものストレスに負の影響をもたらすこと、逆に「バランス型」「家庭と仕事中心型」は夫の見る夫婦関係に正の影響をもたらすことが示された。このことから、家庭と仕事へのバランスのとれた高い関わりを中心とする妻のワーク・ライフ・バランスは家族の生活の質に積極的な影響をもたらす重要な要因であることが示された。

夫婦のワーク・ライフ・バランスと家族

関東、東海地区に在住の134世帯を対象とした。ワーク・ライフ・バランスの類型化を行った。Table1に示すように7タイプが抽出された。

父親と母親のワーク・ライフ・バランスの7タイプを基に分析を加えた結果、父親のストレス「苛立ち」については、>・であった。父親の「ストレスの感じやすさ」、子どもの「ストレスの感じやすさ」、「苛立ち」でも有意傾向が認められたが、その後の検定で有意差が認められたのは父親の「ストレスの感じやすさ」(>)のみだった。また、父親と母親の「夫婦関係への満足感」については、父親の夫婦関係満足感<・>、母親では>であった。このことから、母親が高い家庭関与をしている場合に父親と子どものストレスが低く、良好な夫婦関係が示された。

(3) 児童の家庭について

夫婦のワーク・ライフ・バランスと家族

関東と名古屋に在住の共働き家庭の94名の児童とその家庭のワーク・ライフ・バランスのアンケートから3つの型が超出された。

結果としては、妻の見る夫婦関係について、「相手への要望」において、クラスタ(妻の家庭関与が低く夫が家庭関与に関わっている)<クラスタ(夫婦共に家庭・仕事・余暇時間の活用・地域への関わりが高い)となり、バランスの取れた生活をしていると考えられる家庭において「相手への要望」高いことが示されており、相互に自由な表現がとれていることを示すとも考えられる。また、ストレスについては、妻のストレス「不安感」において、クラスタ<クラスタ(夫の家庭・仕事などの関与が妻よりも低い)であった。また、夫のストレスについても「不安感」

において、同様の結果が得られた。クラスタは妻が余暇時間を多く取り、夫は家庭への関与を多く取っているのに対して、クラスタは夫の家庭関与が低くなっているのが特徴として指摘できる。つまり、妻の家庭関与が見られても夫の家庭への関わりが低い場合に妻のストレスに悪影響をもたらすことが示された。

夫のワーク・ライフ・バランスと家族

共働き家庭の父親(217名)のワーク・ライフ・バランスの型として、クラスタ(家庭関与中×仕事関与中×余暇時間低)、クラスタ(家庭関与高×仕事関与高×余暇時間高)、クラスタ(家庭関与低×仕事関与高×余暇時間高)の3類型が可能であった。このクラスタに基づいて検討を加えた。

夫と妻の見る「夫婦関係の良好性」については>・であった。また、ストレスについては、父親のストレスは「とらわれ思考」で<、「安心・平静」では>、「易怒性」について<であった。さらには子どものストレスにおいても「安心・平静」で>であった。一方妻のストレスについては、「安心・平静」で>であった。

家族機能についても「結合性」「表現性」「民主的」などの健全な家族能が>となることが示され、父親が家庭関与を中心として仕事に関わるバランスの取れたワーク・ライフ・バランスを取る場合には形成されることも示された。

以上のように、小学校児童の父親のワーク・ライフ・バランスは家庭関与を中心として仕事関与を進める場合、夫婦関係が良好であり、夫・妻・子のストレスも低く、健全な家族機能が形成されることが示された。

妻のワーク・ライフ・バランスと家族

共働き家庭の母親(217名)のワーク・ライフ・バランスについては、クラスタ(家庭関与中×仕事関与低×余暇時間高)、クラスタ(家庭関与高×仕事関与高×余暇時間中)、クラスタ(家庭関与低×仕事関与低×余暇時間低)の3類型が可能であった。このクラスタの下で検討を加えた。

夫と妻の見る夫婦関係「関係良好」については>・であった。妻の「夫への要望」では>・であった。また、ストレスについては、父親のストレスの「易怒性」につ

Table1 乳幼児家庭の夫婦のワーク・ライフ・バランスのクラスタ分析結果

() = 組数

	父親				母親			
	仕事関与	家族交流	地域交流	自分時間	仕事関与	家族交流	地域交流	自分時間
(15)	中	中	高	中	高	高	高	高
(13)	中	中	高	中	低	低	低	高
(27)	中	中	高	中	中	中	中	低
(21)	中	中	低	中	高	高	高	高
(19)	中	中	低	中	低	低	低	高
(22)	中	中	低	中	中	中	中	低
(9)	低	低	低	低	中	中	中	低

活動」「余暇時間の活用中心」の両クラスタよりも高かった。また、「仕事を中心とした家庭関与」は「低活動」および「余暇時間の活用中心」よりも高いことが示された。

以上のように、夫婦関係の「相互の理解と信頼」「相互の信頼感」「相互のコミュニケーション」は妻が家庭への関わりを中心として、仕事、余暇活動、町会活動への関わりを持つ場合の方が夫婦共に高いことが示された。夫婦の間のストレスについては妻の「不安感」と「圧迫感」で、「家庭中心の関わり」が一番低いことが示された。

(5) 高校生の家庭について

夫婦のワーク・ライフ・バランスと家族

関東（東京・千葉・神奈川・埼玉）と中部（名古屋）を中心とする地域の高校生とその家族（父親・母親）。313 世帯。うち共働き家庭 235 世帯を分析対象とした。

夫婦のワーク・ライフ・バランスにおいて 4 つのクラスタに分類され、それぞれぞれ次のようになった。：夫仕事・妻低関与型、

：夫中関与・妻余暇型、：夫婦中低関与型、：夫婦高関与型、とした。夫婦のワーク・ライフ・バランスが家族に及ぼす影響について分析を加えた。その結果、夫の「夫婦関係満足」は $\cdot < \cdot$ 、父親の「不安・緊張感」は $>$ 、父親の「思考停滞」は $\cdot >$ 、母親の「夫婦関係満足」は $\cdot < \cdot$ 、母親の「相手への要望」は $< \cdot$ 、母親の「不安・緊張感」は $> \cdot$ 、家族機能(結合性)は $\cdot < \cdot$ 、家族機能(表現性)は $\cdot < \cdot$ 、家族機能(民主的)は $< \cdot$ であった。

以上のことから「家庭」「仕事」「余暇」「地域」の 4 領域において夫婦ともに比較的関与の低い 群や 群は、関与が高いあるいは中程度の関与を持つ家庭よりも、夫婦共に夫婦関係の満足が低く、ストレスが高く、家族機能が不全であることが見出された。一方、4 領域において夫婦共に比較的関与の高い 群は反対の関係性が示された。また、4 領域において夫婦共に中程度の関与を持つ傾向のある 群も、4 群に次いで家族成員に良好な影響をもたらしていることが示唆された。

夫のワーク・ライフ・バランスと家族

上記の調査対象の 313 世帯。共働き家庭 235 世帯、専業主婦家庭 72 世帯について分析検討を加えた。父親のワーク・ライフ・バランスについて 5 つのクラスタ構造を妥当

と判断した。これを基に、家族形態別に分析検討を加えた。

専業主婦家庭においては、「バランス型」が「仕事・地域交流中心型」よりも妻の見る夫婦関係満足度が高かった。また、夫の見る夫婦関係でも「バランス型」は「夫婦関係満足」が高く、「家庭中心型」「仕事・家庭中心型」「仕事・地域型」よりも有意に夫婦関係満足度が高かった。共働き家庭については、妻の見る夫婦関係において「家庭中心型」「仕事・家庭・余暇中心型」「バランス型」は「地域・仕事中心型」よりも「夫婦関係満足」が高かった。さらに、夫のストレスについては「圧迫感」については「仕事・家庭・余暇中心型」が「余暇中心型」よりも高く、また「地域・仕事中心型」は「家庭中心型」「余暇中心型」よりも高いことが確認された。

以上の結果から、高校生の家庭では夫が家庭を中心として仕事への関わりを持つワーク・ライフ・バランスは、夫婦相互の夫婦関係満足感を高めることが示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

尾形和男 2014 妊婦の夫婦関係と精神的ストレスに関する研究 - 夫のワーク・ライフ・バランスと妻の就労の視点から - 愛知教育大学研究報告 第 62 輯 教育科学編 pp.89-97 (査読有)

福田佳織 2014 小学生を持つ共働き家庭の父親および母親のワーク・ライフ・バランスが家族に及ぼす影響 東洋学園大学紀要 第 22 号 pp.1-18(査読無)

森下葉子 2014 父親のワーク・ライフ・バランスと夫婦関係および家族の精神的健康との関連 - 幼児期の子どもをもつ家庭における検討 - 文京学院大学人間学部研究紀要 第 15 巻 1 号 pp.71-81(査読有)

尾形和男 坂西友秀 福田佳織 森下葉子 2013 妻のワーク・ライフ・バランスと夫婦関係 - 中学生の家庭を対象として - 愛知教育大学研究報告 第 63 輯 教育科学編 pp.111-119 (査読有)

〔学会発表〕(計 12 件)

福田佳織 尾形和男 森下葉子 2014 年 3 月 22 日 小学生を持つ父親のワーク・ライフ・バランスが家族成員に及ぼす影響 - 専業主婦家庭を対象として - 日本発達心理学会第 25 回大会発表論文集 p568 京都大学

森下葉子 尾形和男 福田佳織 2014 年 3 月 22 日 乳幼児を持つ父親及び母親のワーク・ライフ・バランスが家族成員に及ぼす影響 - 共働き家庭を対象として - 日本

発達心理学会第 25 回大会発表論文集 p569 京都大学
尾形和男 坂西友秀 森下葉子 福田佳織 2013 年 9 月 15 日 父親のワーク・ライフ・バランスと夫婦関係 - 高校生の家庭を対象として - 日本応用心理学会第 80 回大会論文集 p118 日本体育大学
福田佳織 森下葉子 坂西友秀 尾形和男 2013 年 9 月 15 日 夫婦のワーク・ライフ・バランスと夫婦関係・家族機能・家族成員のストレスとの関係 - 高校生の家庭を対象として - 日本応用心理学会第 80 回大会論文集 p119 日本体育大学
尾形和男 森下葉子 坂西友秀 福田佳織 2013 年 8 月 19 日 父親、母親のワーク・ライフ・バランスと夫婦関係 - 中学生の家庭を対象として - 日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集 p483 法政大学
福田佳織 森下葉子 坂西友秀 尾形和男 2013 年 8 月 19 日 父親のワーク・ライフ・バランスと家族メンバーのストレス及び家族機能 - 中学生の家庭を対象として - 日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集 p483 法政大学
尾形和男 福田佳織 2013 年 3 月 15 日 妊婦の家庭の父親のワーク・ライフ・バランスと家族 - 夫婦関係、家族機能、家族成員のストレスとの関係 - 日本発達心理学会第 24 回大会発表論文集 p92 明治学院大学
福田佳織 尾形和男 2013 年 3 月 15 日 妊婦の家庭の夫婦のワーク・ライフ・バランスと家族 - 夫婦関係、家族機能、家族成員のストレスとの関係 - 日本発達心理学会第 24 回大会発表論文集 p92 明治学院大学
尾形和男 坂西友秀 福田佳織 森下葉子 2012 年 11 月 23 日 ライフステージに基づく父親・母親のワーク・ライフ・バランスと家族成員の発達適応 - 夫婦のワーク・ライフ・バランスが夫婦関係、父・母、児童の精神的健康に及ぼす影響 - 日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集 p131 琉球大学
森下葉子 福田佳織 坂西友秀 尾形和男 2012 年 11 月 23 日 ライフステージに基づく父親・母親のワーク・ライフ・バランスと家族成員の発達適応 - 父親のワーク・ライフ・バランスが夫婦関係、父・母、児童の精神的健康に及ぼす影響 - 日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集 p132 琉球大学
尾形和男 福田佳織 森下葉子 坂西友秀 2012 年 9 月 22 日 父親のワーク・ライフ・バランスと家族成員の発達・適応 - 幼児とその家族形態別の検討 - 日本応用心理学会第 79 回大会論文集 p113 北星学園大学
坂西友秀 森下葉子 福田佳織 尾形和

男 2012 年 9 月 22 日 母親のワーク・ライフ・バランスと家族成員の発達・適応 - 幼児とその家族を中心として - 日本応用心理学会第 79 回大会論文集 p114 北星学園大学

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<http://www.aichi-edu.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

尾形 和男 (OGATA KAZUO)
愛知教育大学・教育学部・教授
研究者番号：10169170

(2) 研究分担者

坂西 友秀 (BANZAI TOMOHIDE)
埼玉大学・教育学部・教授
研究者番号：30165063

福田 佳織 (FUKUDA KAORI)
東洋学園大学・人間科学部・准教授
研究者番号：10433682

森下 葉子 (MORISITA YOUKO)
文京学院大学・人間学部・助教
研究者番号：90591842